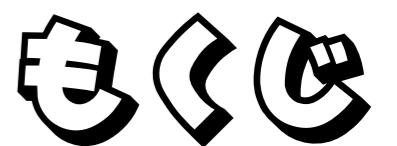


第26年度 活動報告書  
こどもと“共に育ちあう”  
特定非営利活動法人  
山科醍醐こどものひろば



# index

はじめに	1
山科醍醐こどものひろばとは	3
26年度(2024年度)まとめ	5
決算報告	7
収益・費用	8
27年度(2025年度)計画	9
予算	10
げんきスポット0-3	11
わんぱくクラブ	12
楽習サポートのびのび	13
食材支援	14
コッペパンより	15
支援のお願い	23
アクセス・お問い合わせ	24



# Introduction

## はじめに

2024年度も多くの方のご協力により、無事に1年を終えることができました。ありがとうございます。この1年間でも子どもを取り巻く環境は変化し続け、出生数は下がり70万人を割り、過去最低の数字となりました。児童虐待相談対応件数やいじめの認知件数は年々増加し続けています。19歳以下の自殺者数は800人いる現状です。昨年度、子どもの貧困率は大きく下がりました。しかし、上記のように年々増加している困難さもあります。支援策が充実してきている部分もありますが、まだまだしんどさを抱えている子ども、家庭は多くあるという現状がわかります。

そんな中で私たち山科醍醐こどものひろばはどのように取り組むことができたでしょうか。日々の活動では、子育て支援、居場所支援などこれまで同様に取り組むことが出来ました。地域活動でも関係者から地域へと広がりをみせました。一方で、取り組むことが出来なかつこともあります。既存事業の範囲拡大などに手をとられ、今あるリソースで目の前の様々な課題を一つ一つ解決していかなければならず、現状を維持することにとどまる状態が続いている。それでも多くの方にお力を貸していただき、活動として大きな変化を起こすことは出来ませんでしたが、小さい変化の積み重ねをすることは出来たのではないかと思います。この積み重ねが次年度以降、少しずつでも芽を出してくれるといいのではないでしょうか。

また、地域として山科醍醐こどものひろばが活動する山科区、伏見区醍醐地域の活性化を目的としたプラン、地域活性化プロジェクト「meetus 山科・醍醐」(ミータス)が始まりました。この1年で開始したプロジェクトもあれば、数年先まで続くプロジェクトもあります。事業報告にも記載しておりますが、そのプロジェクトの一つをお手伝いしています。

政策を進めていく中で、これからどのように地域が変化していくのか、子どもも大人も、この地域に住んでいて良かったといえる地域に変化していって欲しいと思います。それと同時に誰かが作るのではなく、地域の団体として、より良い地域となるように一緒に作っていきたいです。

社会情勢は厳しいものとなっておりますが、今年度も山科醍醐こどものひろばを応援いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

理事長 品田真孝



1999年に始めた「わんぱくクラブ」は今年で26年目になります。

当初は確か助成金を受けた関係で、未就園児部、幼児低学年部、高学年部の3部で構成された活動をつくり、私達は幼児低学年部として年少から小学3年生までのわんぱくクラブの活動を始めました。わんぱくクラブは、学校でも幼稚園、保育園でもない第3の居場所として、子ども達がのびのびと子どもらしい時代を過ごしてほしいと願い続けてきた活動です。

最初は本当のクラブ形式で、1年間の前期の半年は野外活動、後期の半年は創造活動と分けて、各30名を募集する形でした。その頃は人気でキャンセル待ちもあったほどでした。その頃のひろばは勢いがあり、色々な活動が活発に行われていたように思います。

時代と共に情報も多くなり、保護者から求められていることは何なのかを話し合い、少しずつ形も変化させ、参加したい回だけの申込制にしていき、それにより参加者も多くなり、年間を通して野外活動にシフトしてきました。

その後、2020年のあの未曾有のコロナで全てがストップしてしまい、わんぱくクラブもしばらく中止としました。その後スタッフとも話し合いを重ね、「やっぱりわんぱくが好きだし、子ども達の顔を見たい」との思いから2023年6月から再開し、現在の年4回の形になってきました。時代は変われども、子ども達の元気な笑顔は永遠だと思っています。

わんぱくクラブ 渡辺喜美栄



最初に山科醍醐こどものひろば(前身団体の山科醍醐親と子の劇場)に入会したのは、我が子に「本物に出会わせたい(舞台・人形劇・音楽等)」との想いからでした。

ところが、子どもと共に私の世界もどんどん広がって、気がつけば「こどものひろば」は私の居場所になっていたのです。

我が子ほどの年代の仲間(そう思ってるのは私だけ?)達と意見を交わしながら創り上げる活動。生活の中心が「こどものひろば」だった頃から早や20年(もっと?)。子どもを取り巻く環境だけでなく私達を取り巻く世界も大きく変わってきています。

ここ数年は監事として「こどものひろば」に関わってきましたが、現況に合った活動を客観的に見ていただく為に、この度、監事の任を終えさせていただきました。

「家庭・学校・地域・ひろば」多くの仲間に恵まれて、それぞれの世界を持つ事が出来ました。これからはまた「みんなのひろば」を目指してゆる~く活動に関わっていけたらと思っています。

監事 中尾保美



- 2025年7月31日の任期満了をもって現行の役員体制が終了し、長年、こどものひろばの監事を務めていただいた、中尾保美監事が退任されました。中尾監事は10年以上監事を務めてください、法人運営や活動運営に対してのご意見をいたしました。長年ありがとうございました。

# Mission ミッション

## 山科醍醐子どものひろばとは？



- 地域に住むすべての子どもたちが心豊かに育つことをめざし、地域の社会環境・文化環境がより良くなる事を大きな目的に活動しています。
- 子どもと大人が一体となってものごとに真剣に向き合うことで、“共に育ちあいたい”との願いを大切にして日々の活動をしています。
- あらゆる人にとって自分らしく生きることのできる、人の交わりを大切にします。

- 山科醍醐子どものひろばの事業（活動）は主に7つ、常に子どもたちが真ん中にいます。

例えば・・・



## 設立

1999年12月設立。2000年3月法人格取得。1980年に当時の「おやこ劇場・こども劇場」運動の中、京都親と子の劇場から独立する形で「山科醍醐親と子の劇場」が発足。地域に根差し、親子で文化に触れる機会を創出することに取り組む。その後、会員限定の取り組みだけでなく、より多くの地域の子どもたちとともに活動を創るべく、山科醍醐子どものひろばとして再スタートして、現在45年目をむかえる。

### ●理事・監事紹介 氏名(ひろばネーム)



理事長  
品田真奈 (しな)



副理事長  
林田貴志 (ふあーびー)



常任理事  
横関つかさ (よっこん)



理事  
大場孝弘 (ばけさん)



理事  
小辻寿規 (こつづん)



理事  
村井彰信 (むーちゃん)

理事  
栗田佳典 (くりちゃん)



理事  
日高秀人 (かず)



理事  
梅原美野 (うめちゃん)



理事  
中上桃子 (ぴーちゃん)



監事  
米亨和 (よねさん)



監事  
中尾保美 (なかおちゃん)

### ●外部団体とも連携しています（一部紹介）

#### 《公共団体》

- 行政・外郭団体
- 保育園・幼稚園・児童館
- 小学校・中学校・高校・大学など

#### 《ネットワーク団体》

- 山科区・伏見東・京都はぐくみネットワーク
- 山科区地域福祉推進委員会
- 山科区子育て支援連絡会
- 山科子育て応援団
- 醍醐子育て支援連絡会
- 山科区ボランティアサークル連絡会
- 京都子育てネットワーク
- 勤修中学校学校運営協議会
- 要保護児童対策地域協議会(山科区・醍醐)など

#### 《連携団体》

- 京都子どもセンター
- おとくにパオ
- 子どもNPO子ども劇場全国センター
- 子育てひろば全国連絡協議会
- きょうとNPOセンター
- 京都地域創造基金
- 京都市ユースサービス協会
- おてらおやつクラブ
- 社会福祉協議会など

# 26th 26年度まとめ summary

## 山科醍醐こどものひろばらしくを目指した1年

### 事業の充実について

コロナ禍が明け、通常に戻りつつあった年からさらに1年が終わりました。昨年度に引き続き、交流活動であるこどもフェスタの実施、継続事業（わんぱくクラブ、げんきスポット0-3、学習サポートのびのび）の実施をすることができました。また、新規委託事業で山科区子どもの居場所づくり支援事業「ゆうすペーすやましな」の当日運営を協力することとなりました。

こどもフェスタは会員、関係者向けのイベントから、一般参加者を対象として広く募集してのイベントとして開催することができました。久しぶりに一般参加者を募集するということもあり、準備不足、情報収集不足もありましたが、会員、ボランティア、役職員のご協力のおかげで無事に成功し、150名ほどのイベントとなりました。新規委託事業では、中高生の居場所づくりの運営を行なうことで、これまでこどものひろばとの関わりが少なかった地域、年齢層への支援が広がりました。コロナ禍から始まった食材支援や、家族などのケアをしている若者が対象のヤングケアラー支援など子どもへの直接支援、取り巻く環境への支援は年々充実してきています。

しかし、年度目標の一つとしていた子どもの体験活動の充実という面では縮小したままであり、現状維持となりました。会員からキャンプなどの体験活動を復活させたいとの声がありましたが、計画するまでにはいたりませんでした。次年度は支援事業の充実だけでなく、子どもの体験活動の充実も達成できるように取り組んでいきたいと思います。

### 運営体制について

今年度は事務局職員体制が大きく変化し、様々な働き方をする職員が増えました。そのため、情報共有を密にするための体制づくりに努めてきましたが、活動を実施することに精一杯で、情報共有のためのツールの活用や時間の確保が上手くいかず、事務が滞ることや、連絡不足、確認不足ということが多くなっていました。

一方で非常勤職員の新規雇用ということもあり、職員研修の実施、実施活動後の振り返り、スーパーバイズの定期実施などこれまで以上に職員育成に力をいれてきました。そのため、年度の終わりには事業実施だけでなく、事業実施に関わる調整や展開について検討することができるようになりました。継続実施をしている事業を実施することに精一杯ではありましたが、次年度以降に発展させていくための、基礎をつくることができました。

### 運営財源について

コロナ禍から続く赤字決算を解消することはできませんでしたが、昨年度より収支の差を少なくすることができました。

収益は、新規の委託事業（ゆうすペーすやましな）を請け負ったことと、げんきスポット0-3の運営に家賃補助が加算されたことにより、委託事業収入が増加しました。また、寄付金の中に昨年度取り組んだ、京都市の実施する「きょうはぐふあんと」というふるさと納税を活用した仕組みからの寄付金が入っており、今年度の子どもの貧困対策事業に活用させていただきました。一方、助成金収入（事業指定寄付）、自主事業収入（講師派遣）が大きく減少することとなりました。寄付募集などの広報を上手く打ち出すことが出来なかったため、事業指定寄付、ふるさと納税などを集めることが出来ませんでした。

経費では、物価高騰による影響が大きく、消耗品費の大きな増加がありました。特に、米の不足と高騰は、日頃の活動と食料配布にも影響がありました。昨年度から続く、光熱費の上昇と合わせて、必要経費の増加があります。

また、非常勤職員が増えたこともあり、新規職員のフォローをしていただくために、スーパーバイズを毎月定期的に行ないました。そのため、例年以上に諸謝金が増加しました。最低賃金の変更による給与の増加と合わせて、事業のおける人件費の大きな増加となりました。

### まとめ

これまで、縮小傾向にあった活動ですが、コロナ禍が明けてから活動再開や、少しずつではありますが活動規模が大きくなっています。しかし、この間にノウハウなど失ったものが多く、継続実施をしている事業をするという現状維持に留まり、それ以上に発展させていくには、人、物、金とすべてにおいて足りませんでした。そのため、運営体制の強化、財政基盤の強化が急務となります。職員の基礎作りを進めてきたことで、これまで強く取り組めていなかった、関係機関とのつながり作り、広報など改めて取り組んでいきたいと思います。

### ●ご寄付のお礼

日頃より、山科醍醐こどものひろばを応援いただきありがとうございます。

2024年度は400万円を目標に支援のお願いをさせていただきました。2024年度末である3月末時点で目標達成率62%となる合計247万円（※）の支援をいただきました。ご寄付いただきありがとうございます。いただいたご寄付は、法人の運営費だけでなく、子どもの貧困対策事業、こどもフェスタの開催に使用させていただきました。

引き続き、2025年度も400万円を目標に支援のお願いをさせていただいています。2025年度もこれまで同様、子どもたちとの日常をより豊かに創造していきたいと思っていますので、応援よろしくお願いいたします。

※（公財）京都地域創造基金による事業指定寄付、物品寄付による金額も含む



お米のご寄付



大量のブロックの寄付

## 収入の部

内訳	金額(単位:円)
	会費 257,500
	寄付金 1,905,213
	助成金 570,000
	補助金 0
	事業収益 312,700
	委託金 21,020,300
	その他の収入 354,986
当期収入合計	23,850,699
前期繰越金	1,210,791

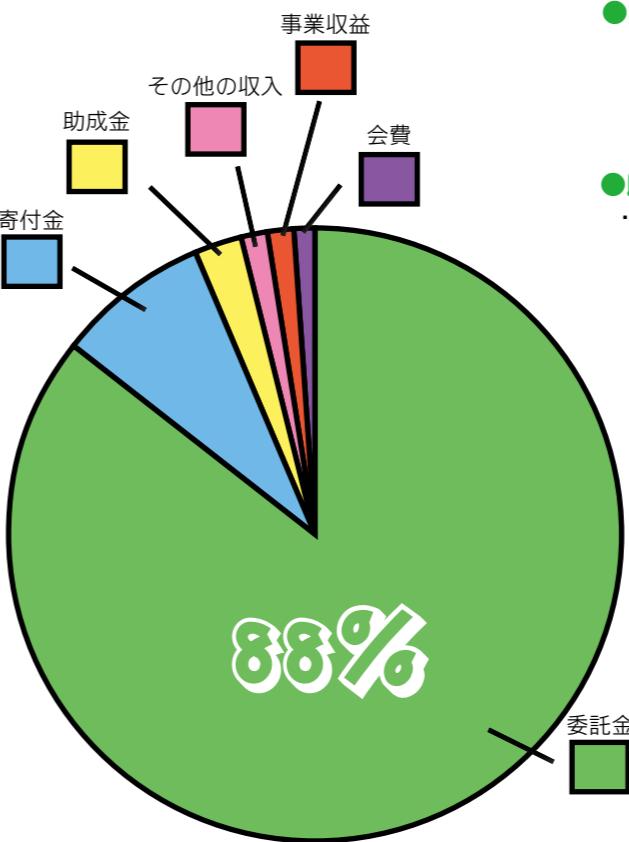
## 支出の部

当期支出合計	24,172,619
内人件費	15,197,446
次期繰越金	805,671

# 決算報告

# Financial statement

金額(単位:円)



### ●委託金

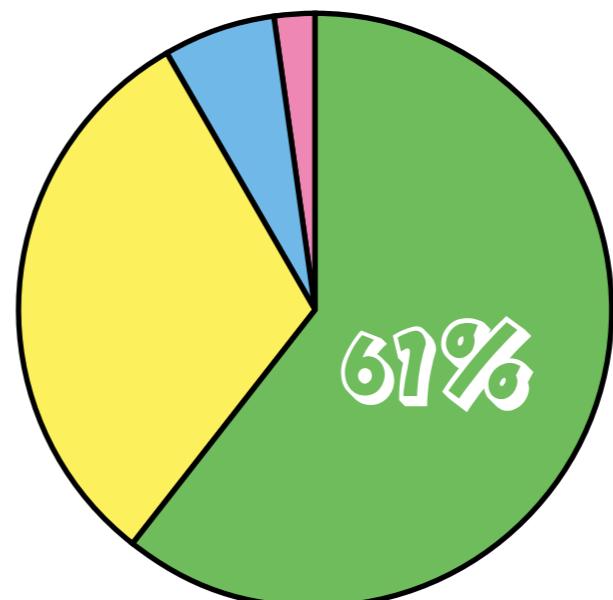
- ・きょうとこどもの城づくり事業
- ・京都市子育て支援いきいきセンター(つどいの広場)事業
- ・生活保護世帯等生活困窮世帯の子どもに対する学習支援業務
- ・山科区における子どもの居場所づくり支援業務の一部

### ●助成金

- ・公益財団法人 京都地域創造基金 事業指定助成事業

昨年度と比較して、収益はほぼ同額となっている。内訳は助成金、他の収入が大きく減少し、委託金、寄付金が増加している。寄付金は昨年度取り組んだふるさと納税を活用した取組が今年度の収入に反映されていることで増加している。委託金は家賃補助、新規委託事業の開始などにより増加した。また、委託金の収益割合は81%から88%と増加している。

# Revenue 収益



昨年度に引き続き経費削減に取り組んできた。しかし、物価高騰の影響もあり、消耗品費や水光熱費が増加している。また、人件費も昨年同様増加した。これは最低賃金の増加と、職員に対する定期的なスーパーバイズを入れたことによる影響であり、事業人件費割合は58%から61%へと増加している。

# Cost 費用

- 人件費(事業)
- その他経費(事業)
- その他経費(管理)
- 人件費(管理)

# 27th 27年度計画 Plan

「活動の充実に向けて取り組みを行なう1年に」

コロナ禍が明け、少しずつ動き出した1年ではありました。運営面の課題から、活動を発展させていくことはできませんでした。そのため、事業の継続実施だけでなく、活動の充実にも取り組んでいきたいと思います。

また、団体設立25周年という節目を迎えた年でもありますので、山科醍醐こどものひろばを多くの方とふりかえり、活動の思い出・経験・参加への想いなど、様々なことを共有していきたいと思います。そこから、次の年度だけでなく、これから5年面向けたビジョンを、みなさんと考えていきたいと思います。

主に、この4項目に1年間取り組んでいきます。

1. 子どもの体験活動の充実
2. 45×25周年事業の実施
3. 運営体制の強化
4. 継続した運営財源の確保

## 1. 子どもの体験活動の充実

年々、子どもの体験活動が縮小し、現在、わんぱくクラブの活動を残すのみとなっております。昨年からキャンプや町たんけんの活動を再度実施しようという声がありますが、実施まではできませんでした。

今年度は、再度スタッフと実施内容や体制などを検討し、事業立ち上げの支援をしていきます。

## 2. 45×25周年事業の実施

前身団体設立から45年、山科醍醐こどものひろばとなってから25年が経ちました。5年前である40×20周年事業の実施を検討していた時に、ちょうどコロナ禍となり、大きなイベントは実施できなくなりました。あれから5年が経ち、感染対策を行ない通常通りのイベントを実施できるようになったため、45×25周年事業を実施します。その中で、この10年間を振り返り、次の5年へ向けて考える機会をつくりていきます。

## 3. 運営体制の強化

昨年度は、事務局の運営体制が変わりました。様々な働き方をする職員が増えたため、情報共有を密に出来るよう体制を整えてきましたが、まだ十分とはいえません。そのため、引き続き事務局および事業間で情報共有を密にできる体制をつくりていきます。

また、今年度は理事の改選があります。活動を充実させていくと共に、次のビジョンを見据えた役員体制を検討していきます。

## 4. 継続した運営財源の確保

昨年度同様、さらに赤字額を少なくすることができましたが、黒字決算とはなりませんでした。最低賃金の上昇や物価高騰もあり、全体的に経費が増加傾向にありますが、収入の多くを占める委託金の増加はありません。そのため、事業を継続実施してくための寄付募集、自主事業収入の強化に取り組みます。

収入の部		金額(単位:円)
内訳	会費	248,000
	寄付金	1,500,000
	助成金	1,200,000
	補助金	0
	事業収益	685,000
	委託金	21,926,300
	その他の収入	534,500
当期収入合計		24,893,800
前期繰越金		805,671
支出の部		
当期支出合計		24,820,580
内人件費		16,424,939
次期繰越金		878,891

Budget  
予算

# Genkispot 0-3

## 【参加の対象】

0～3歳児までの子どもと保護者

## 【感想】

つどいの広場として火曜から土曜の10時から16時の間に、予約なしで自由に来て自由に帰ることが出来る来やすさと一戸建ての入りやすさで自宅にいるような空間が、保護者の方にとっても気楽に来ていただける要因だと感じています。「施設内やおもちゃの清潔が保たれている」「スタッフの対応が親切で、話しやすい」などのうれしい感想もあり、「げんきスポット0-3」の開設の精神を大切に、これからも来館者が安心して過ごせる場を提供していきたいと思います。

最近では、0歳児の来館が大変増えてきています。保健所での案内や山科区の赤ちゃん訪問で案内していただいているのも大きな要因になっていると思います。今後も行政との連携を充実していきながらよりよい環境作りをしたいと思います。研修の場では乳幼児の体や育ちの課題がいろいろと指摘され、育児をめぐる環境も変化しています。スタッフの専門性や特技も生かしつつ、保護者への適切な情報提供ができるようにしていきたいと思います。

「はじめの一歩」「育休復帰サポート講座」などを実施し、いろいろな角度から来館者を応援し、よりよい子育てについてみんなで考えていくました。

0-3の安定した運営のため、施設の安全管理と、出張ひろばの実施場所の検討、スタッフの補充についても計画的に考えていきたいと思います。今後も来館者の声を聞きながら、地域に根差した活動や保護者の方にも子育て力・地域力を持っていただけるような0-3独自の取り組みを考えていきたいと思います。

## 【活動の目的】

0～3歳くらいまでの子どもと保護者が自由に遊びに来られる場として、無料開放し、以下の取り組みを中心に子育て支援事業を行う。

- 1 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- 2 子育て等に関する相談、援助の実施
- 3 地域の子育て関連情報の提供
- 4 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
- 5 地域の子育て力を高める取組の実施

施設を飛び出して地域の場での支援事業を行なう。

## 【成果】

地域での認知度も少し上がり、音羽川学区の回覧板や口コミ、インスタを見て、利用している方と一緒に来館していただけるようになりました。保健所での案内や山科区の赤ちゃん訪問で紹介してもらいましたと来館される方もありました。来館者がお友達を誘ってきてくださることも多く、またパパの登録と来館も増えました。

週に3回、無料で楽しめるプログラム（「おはよう体操」や「絵本となかよし」など）を設定する日、有料のベビーマッサージやママワークの日などを織り交ぜながら企画を実施し、同年代の子育てをするママ同士が、ゆっくりほっこりできる場となっていました。0歳児の参加が増え、親子のふれあい・憩いの場になっているのがよかったです。

おはよう体操ではみんなで一緒に体操し、企画後のママのおしゃべりタイムを楽しみにされ多くの参加者がありました。「はじめの一歩」「育休復帰サポート講座」などの連続講座でも参加者が集まり、子育てについてゆっくりと考え今後の育児に生かす内容を提供出来ました。講座を機会に参加者同士で仲良くなり、その後も交流されている姿が見られています。しばらく実施できていなかった「安心感の輪講座」を開催して参加された方に喜んでもらいました。「ランチタイム」を再開し、「お昼を食べてゆっくり過ごせると」喜んでいただいています。

充実事業として現施設だけでなく外部に出かけたり、「ほんわかツアーや」を実施して 1歳児後半から活発に動き回る子にも場の提供がきました。

# げんきスポット0-3

## 【活動の目的】

親から離れ、異年齢のグループで野外活動を通して自然に触れ仲間と共に協力し野外炊事など作る喜びを体験し、家、学校、幼保育園ではない居場所として子どもらしい子ども時代を過ごしてほしいと願って取り組んでいる。

# Wampakuclub

## わんぱくクラブ

### 【活動内容】

①ネイチャービンゴ@山科駅からみささぎの森（6/2）「鳥の声」などビンゴに書いてあるものを自然の中で探していくネイチャービンゴを行ないながら、みんなで疎水沿いを探検しました。

②川遊び＆流しそうめん@小山方面（8/25）小山の清流に川遊びに出かけました。

お昼ごはんには、みんなで流しそうめんを食べました。

③はんごうすいさんをしよう!!@みささぎの森（11/10）みささぎの森の自然の中で一日ゆっくり遊びましょう。お昼には、炊きこみご飯と、鶏ときのこのホイル焼きをみんなで作って食べました。

④やきいもパーティー@みささぎの森（2/16）たき火をして、お芋を焼きましょう。みんなで一緒にほかほか熱々の焼き芋を食べた後は、みささぎの森で思いっきり遊びました。

2023年から再開しましたが少しずつ参加者も増え、全回参加される方も多くなり子ども達と保護者の皆さん方が何を求められているのか声を聞き継続していきたいと考えています。課題としてはスタッフ不足で新たなスタッフ、ボランティアも募集していきたいと考えています。

### 【感想】

だいたいの予定として春夏秋冬を意識して企画を立て、新しいボランティアも増え少しづつ軌道に乗ってきたと感じています。子ども達も幼稚園繋がりなどで参加者も増え毎回楽しみにしてくれています。毎回班を決め班で活動、行動することで、役割で分かれることなどその時々の活動でメリハリをつけるように、スタッフとボランティアが共有し意識していきたいと考えています。小山方面への夏の川遊びと竹での流しそうめんは非日常体験で子どもたちが少し成長したように感じました。



【参加の対象】

- 主に山科区・伏見区醍醐地域の小学校1年生～中学3年生:  
@ら～にんぐ(学習)、@らいふ(生活)、@ひろば(余暇)、@ほーむ(家庭訪問型)
- 主に伏見区醍醐地域の小学生:@だいご(生活・学習・余暇・食材支援)
- 高校生以上(活動を卒業したメンバー):@たいむ



【活動の目的】

- 発達課題、不登校、子どもの貧困、ネグレクトなど「困り」を抱え、自信が持てない子どもたちの生活・学習・余暇のサポートに取り組む。年齢の近いサポーターがマンツーマンを中心として関わりながら、子ども1人1人に合ったサポートに取り組むことで、子ども自身が自信を持つことや将来に向けての選択肢が広がることを目的としている。
- また、法人内の他の事業に参加したり、本法人以外の団体や地域ともネットワークを作り、子どもたちが安心して過ごせる場所を広げることも目指していく。

【活動内容】

- @らいふ→平日の15時～21時に実施
- @ら～にんぐ→平日の週1回120分程度で実施
- @ほーむ→利用者の希望日程(週1回90分程度)で実施
- @ひろば→月に1回程度実施
- @たいむ→のびのびの活動、地域イベント等でのボランティア活動／同窓会
- @だいご→平日15時～19時、宿泊活動も実施
- ・中学生勉強会(委託事業)→毎週月曜日・火曜日・木曜日実施
- ・専門家が入ったサポーター向けの「ふりかえり会」の実施
- ・保護者面談
- ・ケース会議参加



## 練習サポートのびのび

【成果】

- ・子どもも大人も共に育つ活動づくりができたこと
- ・活動で関わり方や育ちに正解ではなく、一回一回の活動で参加している子どももサポーターも、お互いに一緒にどうすれば充実した活動になるか悩めたこと。
- ・参加している子どもにとって「安心」な場が作れたこと
- ・2024年度は、年度最後の活動の時に子どもたちにアンケートを取りました。その中で「なぜ来ていたか」という項目で、人との関わり(会いたい人がいる、頼れる人がいる)や場の安心感(楽しいから、なんとなく)で来ていることが伝わってきました。長くのびのびの活動に来ている参加者のひとりは、「ここだから愚痴がいって、なんとかなってきた」と、子どもにとって生きていく中でなにか落ち着くことのできる場が作れたと思います。

Nobinobi

【感想】

- 一人ひとりの子どもの育つペースに寄り添った活動づくりを意識した1年でした。年齢や学年でどうしても比べてしまいがちではありますが、一人ひとり経験してきたことも違えば、出会った人の数、関係性の長さ、落ち着いた環境かどうかといった違いで、子どもの育ちは変わります。また育ちは直線的ではないからこそ、日常の活動の中で、子どもたちの気持ちはいろんな表現で出てきて、関わるサポーターも「どう一緒に時間を過ごせば良いか」をずっと悩んできました。活動を積み重ねたからといって「困り」は解決されるわけではなく、それでも目の前にいる子どもの味方でいたいと、日々の活動を作ってきたと思います。関わってきた子どもの中で、活動の中で進路が変わった人もいれば、現在進行形で進路に迷っている人もおり、年度を超えて関わりとつながりが必要な状況ではあります。安全な場と安心の関係性を安定した形で事業づくりできればと思います。

## 食材支援

food aid

【活動の概要】

- 昨年度に引き続き、経済的に困窮している家庭だけでなく、コロナ禍で家計が切迫した家庭なども対象に食材、衛生用品、日用品の支援を継続的に行ないました。
- 活動に来ている子どもへの手渡し、郵送、フードパンtryなどの様々な方法により、多くのご家庭に支援することができました。



【ご支援いただきありがとうございます】

食材、衛生用品、日用品、衣類の支援を実施するにあたり、以下の助成金、寄付金、物品寄付を活用させていただきました。ご支援いただきありがとうございました。

- ・近畿ろうきん 社会貢献預金「笑顔プラス」
- ・公益財団法人京都地域創造基金「事業指定寄付」
- ・阪急阪神不動産株式会社 レゴブロック
- ・認定NPO法人おてらおやつクラブ お菓子、食材、物品寄付
- ・こども食堂サポートセンター(運営:一般 社団法人全国食支援活動協力会) 餃子の王将「お子様弁当」
- ・飴匠さわはら 飴の寄付
- ・ノートルダム女学院 中学高等学校 衣類の寄付
- ・その他、個人の方多数

# Activity report

活動  
レポ



## 活動 ピックアップ レポート

(2024年3月~2024年5月)

**3/20 (水・祝) 町たんけん 22年間の活動に幕**

3/20 (水・祝) 山科アスニー和室にて第7回目の町たんけんの活動が行なわれました。

今回の活動では講師の中村武生さんからお話を聞いた後、第5回(1月)の活動の中で自分で作った清水焼のお茶碗でお抹茶を自分で点てて頂きました。

その後「山科かるた」で遊び、最後に、1年間を締めくくる言葉を、14名の子どもたちが一人ずつ述べて、町たんけんの修了式を終えました。

第7回の活動で2023年度の町たんけんの活動がすべて終わると同時に、この活動をもって「町たんけん」は22年間の活動に幕を下ろしました。



町たんけんは、2002年に活動を開始し、ひとりひとりの子どもが、町たんけん活動の中で、自分の力で地域の良さをみつけ、「この町が大好き」と言える子どもを目指して活動してきました。

この22年間で様々な場所を訪問し、知らないことを知り、新たな発見やすてきな出会いがあったことでしょう。それは受入れをしていただいた訪問先の皆様、活動をご理解、ご協力いただいた保護者の皆様と講師の方々、活動を支えていただいたスタッフ、そして参加してくれた子どもたちがいてくれたからこそだと思います。活動が終了することに寂しさを感じますが、この町たんけんという活動が、次ぎはどのような活動につながっていくか楽しみですね。22年間ありがとうございました。

町たんけんの活動終了後に発行している、2023年度の報告書は現在作成中です。もうしばらくお待ちください。

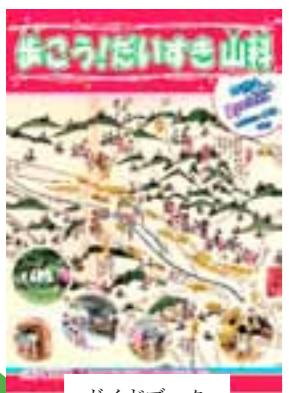
少しだけこれまでの  
町たんけんをふりかえる



法人20周年時の報告書より  
担当者のコメントを抜粋



かるた双六



ガイドブック

「町たんけん」が始まったのは2002年。中学生の頃からやってみたいと温めていたものを、助成金に応募したら見事に通り、始めることになりました。最初は、小学生のことも地域の歴史もよくわからないからと、歴史や小学校の元先生のご指導の下で行い、いささか「学ぶ」要素が強かったようです。それでも、みんな地域を知ることが楽しかったのか、1年間続けて来てくれました。40名余りだったので、バス移動は無理なので、最終回はマイクロバスをチャーターして行いました。

2年目からは少人数にして、自分の出来る範囲の内容に改め、子ども中心ですすめています。活動するうちに、子どもに決断を委ねる場面も増え、子どもの活動になってきたと感じます。一方では、「山科かるた」「かるた双六」「だいすき！山科ガイドブック」など、地域を身近に感じる素材の提供もすることができます。(朱まり子)

**3/30、31 (土・日) 山科スイーツフェス 参加**

事業  
報告

前回の第1回目(4/2)に引き続き、本願寺山科別院(西御坊)さんにて行われた「山科SWEETS FES」にキッズコーナーとして遊びコーナーと授乳室を担当しました。

第1回目とはブースの位置が変わりましたが、遊びコーナーの内容は子どものひろばがイベントブースで出店する時におなじみの缶積みと、山科かるたを広げて一緒に遊び、授乳スペースでは案内や補助を担当しました。



今回のイベントでは2日間の開催となりました。桜が満開になるには少し早い時期ではありましたが、両日天気が良く、前回同様多くの方がイベントに足を運んでおられました。そして、前回の反省を活かしてか、行列は出来ていましたが、長時間待つこともなく、皆さん買われていました。また聞くところによると石川県からもイベントに来られた方もいたとか・・・。



多くの方が参加されたため、子どものひろばブースも盛況で、多くの子どもたちや子連れの親子が休憩がてらブースに立ち寄ってくれました。すでに次回も計画されているらしいので、次回のイベント開催も楽しみですね。

**5/19 (日) 第26年度通常総会 開催**

5/19(日)に本願寺山科別院(西御坊)の多目的会館にて、山科醍醐子どものひろば「第26年度通常総会」が開催されました。昨年度は、コロナ禍明けということもあり、みささぎの森にて通常総会と子どもフェスタを同日に開催するという初めての試みが行なわれましたが、今年度は例年の通り、通常総会だけの開催となりました。開催日当日は生憎の雨となってしまいましたが、正会員だけでなく、理事、監事、オブザーバーからも参加がありました。



議案では法人事業報告、決算報告、事業計画、予算がそれぞれ報告され、審議されました。質疑応答では、今後の会員のあり方や子どもフェスタの実施について議論がされました。

子どもフェスタについて総会としては、昨年度同様に会員、関係者向けの小規模実施をする方向で決定され、開催時期、場所、内容等は今後実行委員会で検討していきます。

会員については、今後も検討をさせていただきますが新規獲得に向けて、会員のメリット、正会員のあり方、各事業のサポート制度などが議論されました。



審議が全て終了した後は、参加いただいた各事業担当者や参加者から事業報告を行なってもらいました。

「げんきスポット0-3」「わんぱくクラブ」「町たんけん」「楽習サポートのびのび」の活動について、それぞれお話しいただきました。各活動の報告は、議案書の最後に掲載しておりますが、読むだけではわからない、担当者としての想いや感想も含めて聞くことで、より活動の様子や状況がわかりやすかったです。



※第25年度事業報告、決算、第26年度事業計画、予算は、法人ホームページにアクセスいただき、団体詳細情報よりご覧いただけます。

ヨツペパン188号より



# 活動 ピックアップ レポート

(2024年6月~2024年8月)

## 8月 楽習サポートのびのび 夏の活動

今年も暑い日が続きます。楽習サポートのびのびでは毎年、子どもたちが夏休みの期間に宿泊活動を実施しています。今回は宿泊活動からの一コマと子どもがやりたいということを実現してみた出来事をご紹介します。

### Aさんの宿泊活動

生活支援に参加しているAさんは宿泊活動をずっと楽しみにしていました。今回の活動では、どこかに行きたいとかではなく、とりあえずお泊まりがしたいと言っていたので、2日目の予定が決まっていませんでした。「その辺適当に行くとかでもええで」とは言っていますが、せっかくの夏の思い出づくりにと、兄と姉がひろばのお泊まりで行っていたひらかたパークへ行くことに決定しました。

1日目は、公園でキャッチボールをして汗を流し、夕食にはサポーターの一人に「得意料理は?」と聞きサポーターの得意な「お好み焼き（広島焼き）つくろか！」と決定。

寝るまでに、ゲーム大会をしながらだらだらと過ごす中で、部活の話や家庭の話などをしました。日付が変わる頃にはみんな就寝。

2日目はゆっくりとひらパーに出発。久しぶりのひらパーに大興奮するAさん。到着後は、早速遊ぶのではなく、まずは昼食をということでオムライスを食べに行きます。お昼を食べながら、これ乗りたい、こういう順番で回ろうと作戦会議をします。

Aさんはジェットコースターに乗ったことがないらしく、初挑戦をしてみるに。怖そうなジェットコースターが2つあり、まずは大丈夫そうな、木製のコースターに乗ってみます。

結果・・・怖すぎて、絶対にもう一つには乗らないと固い決意をするAさん。「お尻浮きすぎてやばかった」とのこと。

その後もいくつかアトラクションに乗りながら、たまに冷凍室のアトラクションで冷やされに行き、夕方までお出かけを満喫しました。

Aさんにとって夏の思い出になってくれたいいなと思います。

### ポケカ大会の開催

2、3ヶ月前からBさんは「ポケカ（ポケモンカードゲーム）をみんなでやりたい」と話していました。そのため、せっかくだし「ポケカ大会をしよう」とサポーターから提案。活動前に5人のサポーターが集まってポケカ大会を開催しました。

この日のためにBさんはデッキを何個も用意をしてくれており、サポーターはそのデッキを貸してもらい参加しました。またBさんからそれぞれのデッキの使い方など一人ひとりに丁寧に説明してくれ、練習してからいざ大会本番！6人ほぼ総当たりの形で戦い、見事Bさんが5勝1敗で優勝。今度はクリスマスに他の参加者も誘って大きな規模でやりたいと言っているので、近いうちに第2回大会が開催されるかもしれません。



## 8/23 (金) 絵本を寄贈いただきました

8/23に無印良品京都山科さまより、げんきスポット0-3に絵本を寄贈していただきました。これは、無印良品さまの「つながる絵本」の取り組みの一環です。

無印良品 京都山科のつながる絵本は、読み終えた本をただ捨てるのではなく、回収することで本を循環させて、地域の子どもたちに絵本をプレゼントする取り組みです。

### ■「新しい絵本」となって地域の児童福祉施設等へ寄贈

無印良品 京都山科では、つながる絵本『回収ポスト』を新たに設置します。

みなさんのおうちで眠っている読まなくなった本をポストへ入れてください。絵本だけでなく書籍も回収の対象です。

回収した本は、古本買取業者のバリューブックスに渡り査定されます。その金額分の新しい絵本へと姿を変え、児童福祉施設等へ無印良品 京都山科が届けます。

バリューブックスは「本を通して、社会をよくする力を引き出したい」と考え、たくさんつくれ、たくさん捨てられる本の課題に対し、古本の活用機会を模索しながら様々な取り組みを続けています。MUJIBOOKS はこの活動に共感し、以前より「古紙になるはずだった本」として販売をしてきました。そして『回収ポスト』を設置し新たな取り組みをスタートします。（無印良品 京都山科 ブログより）

といことでげんきスポット0-3に新しく寄贈いただいた絵本コーナーを設置予定ですので、どんな絵本がならんだかチェックしてみてください。



また、無印良品さま主催のタウンミーティングにも参加させていただき、山科でやってみたいことを様々な所属の方と話してきました。今後、このタウンミーティングで話し合ったことが実現していくかもしれません。こちらも楽しみですね！

## 8/25 (日) わんぱくクラブ「川遊び＆流しそうめん」

昨年6月から再開したわんぱくクラブも2年目になり、今年度は4回の実施予定です。2回目となる今回は少し遠出して、小山方面へ川遊びに行きました。

週間天気予報では雨予報、雨プロになるのか不安の中、前日には曇りになり降水確率も下がり当日は暑い位の天気になり予定通りのスケジュールで集合出発！



参加者18人、スタッフ、ボランティア13人が小山のセンターでまずは流しそうめんをしました。青竹半分に割った本格流しそうめんです。そうめんを流す班、食べる班、室内で遊ぶ班で全員が体験し、流す速さの加減が結構大変だったけど時にはみかんを流したり、吃的のも次々と流れるそうめんをキャッチして食べられたラッキー！流れてはしまったりわいわい言いながらみんな楽しそうでお腹いっぱいになりました。

その後は、川の方へ移動し冷た~い川で魚を探したり布を流し追い込み漁をしたり、石の下にカニがいたりでみんなそれぞれの場所で楽しんでいました。着替えや片付けもスムーズにでき、クールダウンとしてボランティアに絵本を3冊読んでもらい、みんなまつたりしたりし、余裕をもって帰りの出発しました。水量も少なくみんな怪我もなく無事終了できました。

次回は11月10日みささぎの森で飯ごう炊さんの予定です。





# 活動 ピックアップ レポート

(2024年9月~2024年11月)

## 9/24 (火) 子どもの貧困対策事業報告会 開催

昨年度に引き続き、9/24 (火) 19時から21時でオンラインにて2023年度子どもの貧困対策事業報告会を開催しました。参加いただいた方は、関西だけでなく、様々な地域の方が参加をされました。対面での報告会の開催も良いですが、平日の夜の開催ということもあります。オンラインでの報告会ならではの参加者となりました。

報告会は理事長からのあいさつとお礼に始まり、2023年度の事業担当者と2024年度の事業担当者からこれまでの事業報告、いただいた寄付金の使い道の報告、事業担当者とサポーターによるトークセッション、今後の展開について、質疑応答というながれで進みました。

報告会を開催でき、報告書だけでは伝えきれなかったことを伝えることのできる機会となつてよかったです。



2023年度子どもの貧困対策事業報告書は右記のQRコードから！



サポーターのみーちゃんは報告書にインタビューが載っています。

事業担当者から、なぜ子どもたちが活動に来ているのか検証しています。



事業担当者とサポーターによるトークセッション

(公財) 京都地域創造基金  
事業指定寄付  
寄付の税制控除ができます。



この活動では、みなさまからのご寄付によって活動が作られています。本当にありがとうございます。皆様からいただきましたご寄付は、食材・物品の購入や活動の維持等子どもたちとの活動のために大切に使わせていただいております。今後の活動維持のために寄付目標金額400万円をめざしております。左記のQRコードよりご寄付、よろしくお願ひいたします。

## 11/4 (月・祝) やませいフェスタに参加

11/4 (月・祝) に今年も開催された地域イベント「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」の中で山科青少年活動センターが実施する「やませいフェスタ」に参加してきました。

コロナ禍前は駄菓子屋を出店しておりましたが、昨年からはスーパーボールすくいのお店を出店しております。当日はお天気も良くてたくさんの子どもたちでぎわっていました。長袖では暑く、やませいで出店されていたパティスリーアラマさんのカキ氷を食べるにはちょうど良い気温となりました。

出店したスーパーボールすくいのコーナーでは、普段こどものひろばの活動に参加している子どもに1日子ども店長として参加してもらい、ルール設定、お客様への案内、袋詰め、売り上げ計算などスタッフと一緒に行いました。参加してくれた子どもの中には、60個以上すくっていた子もあり、何度も挑戦してくれる子もいました！金魚やキラキラ、うんちのスーパーボールなど好評で、用意していたセットも全て完売しました！スタッフも手伝ってくれた子どももクタクタでしたが、楽しい時間でした！

コロナ禍で体験活動が少なくなりました。そんな中で様々な社会環境により、その少ない体験活動の機会を経験できない子どもたちが、小さな社会体験を積んでいくことで、「自分できるかも」と自信に繋がったり、「楽しかったな」と思える思い出となっていけたらと思います。



## 11/29 (金) こどもフェスタ2024に向けて

12/1 (日) に山科青少年活動センターで「こどもフェスタ 2024 with クリスマス」を開催します。久しぶりに、関係者の参加だけでなく広く広報をしての開催となります。またやませいでの開催も2016年に以来の開催となります。

様々なことが久しぶりすぎて、事務所はてんやわんやしております。写真では開催に向けて、遊びコーナーや模擬店の準備物が重なっている様子ですが、フェスタ前の見慣れた光景でもあります。

また、190号のコッペパンが発行されている時には、すでにこどもフェスタは開催されており、開催報告を書きたかったのですが、開催報告はコッペパン191号で報告させていただきますので、お楽しみに！

こどもフェスタは子どもたちが一日無料で遊べることを大事にしています。その主旨に賛同いただき協賛いただける方、企業を募集しております。(2025年1/6まで)協賛いただける方は右記QRからお申ください。よろしくお願ひいたします。



# コッペパン190号より



# 活動 ピックアップ レポート

(2024年12月~2025年2月)

## 12/1 (日) こどもフェスタ 2024with クリスマス開催



午前中にスポーツルームにて山科かるた大会を開催。かるた大会だけでなく、町たんけん最後の報告書の配布とともに、町たんけん最後の活動となりました。



「ことえほんさん」による絵本と琴を組み合わせた読み聞かせ



「かきくるカー」さんの工作室  
自由に絵を描いたり、工作したりしました



午後からはいつもの遊びコーナー

12/1 (日) に山科青少年活動センターにて「こどもフェスタ 2024with クリスマス」を開催しました。開催日当日は天気もよく、遊びやすい一日となり、子どもから大人まで 100 名を越える方が参加してくれました。お手伝いをいただいたスタッフと合わせると、150 名ほどのイベントとなりました。久しぶりに関係者だけでなく地域の方が広く参加してくれるフェスタではありました。懐かしいスタッフ、参加者が、新しい世代と一緒に参加するなど同窓会のようなイベントもあり、この 25 年でつながってきた縁が、新しい世代につながっていくということを感じることのできるこどもフェスタとなりました。参加いただいた方、お手伝いいただいた方、大変ありがとうございました。

今年度のこどもフェスタも、子どもたちが一日無料で遊べることを大事にしてきました。その主旨に賛同いただいた個人の方（匿名）数名から協賛いただき、こどもフェスタ開催の費用とさせていただきました。ありがとうございました。



カレー、フルーツポンチ、  
わたあめの販売も

次のこどもフェスタは  
4/27 (日) @やませいを予定しています。  
45×25周年イベントを企画していきたいですね！  
ぜひご参加ください！

## 12/12 山科醍醐こどものひろば 25 年を終えて

25 年前である 1999 年 12 月 12 日の日曜日に設立総会が開催され、「山科醍醐親と子の劇場」から「山科醍醐こどものひろば」となりました。私自身、当時は小学生であり、京都にゆかりがあるわけでもありませんでした。もちろん社会情勢など知らず、友達と遊ぶ日々を過ごしていたかと思います。ただ、ノストラダムスの大予言や 2000 年問題で騒いでいたのを覚えています。振り返れば良い子ども時代を送っていたのだと感じます。皆さん 25 年前を覚えているでしょうか。

さて、この 25 年間で、私が 4 人目の理事長となります。就任当初に、これまでこどものひろばを創ってきた方の思いを受け継ぎ、そこに今度は私自身の思いも詰め込み、それを次の世代に繋いでいくことを目標に掲げてきました。残りの任期も半分を過ぎ、理事長としてだけでなく、こどものひろばとして、次の世代にどんな思いをつないでいくのか。今、活動の作り手から、法人の担い手となり、子どもを活動に参加させる世代となりました。育ちの循環があるこの組織だからこそ、つながり続けていくことが大切だと感じます。

12 月 1 日に開催した「こどもフェスタ 2024」でも、地域の子どもたちだけでなく、設立当時から現場を支えてくれていたスタッフやこれまでの参加者、ボランティア、会員、役職員と多くの方が参加してくれました。理事長だった 3 名も全員参加していました。参加している世代はばらばらでも、まるで山科醍醐こどものひろばの同窓会のようなイベントでもあったように感じます。久しぶりに会ったとしても、ついこの間のように関わることのできる団体であり、こどものひろばが 25 年間紡いできた縁が、新しい世代につながっていくのを感じました。前身団体から 45 年、こどものひろばになってから 25 年。時代に合わせて変化をしてきましたが、子どもが真ん中という、当時と変わらない姿がそこにあったと思います。

これからも会員、役職員、ボランティア、寄付者、関係機関のみなさま、そして地域の方々とつながりつながり続けることにより、この地域に住む全ての子どもたちが子ども時代も良かったといえる地域であるように取り組んでいきたいと思います。節目の年でもありますので、「45×25 周年フェスタ」なども開催できるいいなと思っています。今後とも応援をよろしくお願いいたします。

山科醍醐こどものひろば 理事長 品田真孝

## 12/20 (金) から「ゆうすペーすやましな」OPEN

山科区役所 1F にある旧税務センターを活用して、昨年 12 月 20 日から「ゆうすペーすやましな」（通称：ゆうすペ）が OPEN しました。ゆうすペは、中高生年代が自習、ボードゲーム、おしゃべり（相談）、仮眠など、各自のペースで自由に過ごせる場所です。自習室やフリー Wi-Fi、ボードゲーム、漫画などがあります。飲食物の持ち込みもできますし、今なら温かいドリンク 1 杯プレゼント中です。



ゆうすペは月曜と金曜（祝日除く）の 15 時から 18 時まで開いています。週に 2 日の開催の内、こどものひろばは、金曜日の運営を担当しています。公共施設や月曜日を運営している、山科青少年活動センターなどは山科区の北部にかたまっています。第 3 の居場所として山科区の南部エリアの子どもがアクセスしやすく、利用しやすい場所になったらいいなと思います。

ヨウスペパン 191 号より

# Support

わたしたちの活動は、みなさまの応援・ご支援によって成り立っています。  
いろいろな力タチの応援があります。ぜひ一緒に、地域の子どもたちの成長を見守っていきませんか？

## 一緒に活動をつくって応援

ボランティア	ボランティアご希望の方には当団体の説明会を行います ■各活動部で、企画運営・子どもたちの活動をサポートするスタッフ ■事務局業務をサポートするスタッフ など
会員	会員：年払い16,000円以上、または半年払い13,000円以上 (+初回のみ入会金500円) ■当団体へ直接持ち込み ■郵便振替 ※口座は左下参照 ■クレジット決済 (VISA/Master/JCB/AMEX/DINERS) ※ホームページから手続きできます ページURL: <a href="https://congrant.com/project/kodohiro/7080">https://congrant.com/project/kodohiro/7080</a>
支援会員	会員：個人支援会員は年払い13,000円以上 団体支援会員は年払い15,000円以上 ■当団体へ直接持ち込み ■郵便振替 ※口座は左下参照 ■クレジット決済 (VISA/Master/JCB/AMEX/DINERS) ※ホームページから手続きできます ページURL: <a href="https://congrant.com/project/kodohiro/7080">https://congrant.com/project/kodohiro/7080</a>

## 物品寄付で応援

古本・CD・DVD	■当団体へ直接持ち込み ※お近くの場合、取りに伺うこともできます ■ご自宅や職場からチャリボンへ送る (申込後、宅配業者が集荷に来ます。送料無料) <a href="http://www.charibon.jp/partner/yamashita/">http://www.charibon.jp/partner/yamashita/</a> ※寄付先は山科醍醐こどものひろばを選択
食品・文具など	■当団体へお持ち込み ※お近くの場合、取りに伺うこともできます
資金寄付で応援	
団体へ直接寄付 ※1口3,000円から	■当団体へ直接持ち込み ■郵便振替 ※口座は左下参照 ■銀行振込 ※口座は左下参照

京都地域創造基金を通じて  
※100円から  
※税制優遇措置の対象  
※当団体でも振込用紙をお渡しできます  
※継続寄付のお申込ができるようになりました

京都地域創造基金 URL: <http://www.plus-social.jp/project.cgi?pid=11>

口座記号番号: 00930-4-312262  
加入者名: 京都地域創造基金寄付口座  
通信欄: 必ず寄付事業名「子どもの貧困対策事業」と記載

銀行振込 (当団体の事業への寄付専用口座)  
京都信用金庫 本店 (普) 口座番号: 2027687  
口座名義: 公益財団法人京都地域創造基金

クレジット決済 (VISA/Master/JCB/AMEX/DINERS/Discover)  
地域創造基金URL: <http://www.plus-social.jp/project.cgi?pid=11>

## 当団体の口座

■郵便振替	口座記号番号: 00990-1-47656 加入者名: 特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば
■銀行振込	京都信用金庫 店番号: 052 口座番号: 0498523 口座名義: 特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば お問い合わせは電話・メールでお気軽に。ホームページも見てね！



支援一覧はコチラ

# 支援のお願い

# Access



# アタモス

## NPO法人 山科醍醐こどものひろば 山科事務所

TEL 607-8072  
京都市山科区音羽伊勢宿町33-77  
TEL 075-591-0877  
平日 13:00~17:00

## NPO法人 山科醍醐こどものひろば げんきスポット0-3

TEL 607-8074  
京都市山科区音羽乙出町14  
TEL 075-634-9242  
火~土 10:00~16:00

## NPO法人 山科醍醐こどものひろば 醍醐事務所

TEL 601-1462  
京都市伏見区小栗栖森本町20-22  
TEL 075-202-9419  
OPEN 開館日は不定期

※掲載の各情報は、2025年8月1日現在のものです。

# Contact

## 特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば

kodohiro@gmail.com  
<https://www.kodohiro.com/>  
<https://blog.canpan.info/kodohiro/>  
<https://www.facebook.com/kodohiro/>

# お問い合わせ